

早稲田大学 図書館紀要

第 57 号



春城市島謙吉の像

加藤 哲 夫

一九〇二年（明治三五年）に東京専門学校は早稲田大学へと名称を変更した。正史によれば、当時図書館の蔵書は、寄託図書を含めてもわずかに約三万六千冊ほどであった。市島は、就任とともに自らの蔵書約八千冊を館に収め、その後積極的に収書活動を展開、わずか五年で十萬冊の規模になった。そして、今の隆盛は市島館長時代にその基礎が築かれたといつてよい。

市島は、就任以来一五年にわたり図書館長の職にあつた。館長時代の業績は、今日国宝、重要文化財に指定されている資料をはじめ、多くの貴重書の収集にも尽力したこと、さらには図書館規則の制定、蔵書目録の刊行にはじまり、対外的には日本図書館協会初代会長、国書刊行会その他の出版活動など文化事業と多方面にわたる。

草創期の早稲田を支えた高田早苗、天野為之、坪内逍遙、そして市島を「四尊」と呼ぶことがある。この三月に市島の胸像が中央図書館入口に建った。草創期における物心にわたる偉業を像をもって銘ずべきと、あらためて考える。

2010 年 3 月